

土生穴池御普請願并御入用覚

本願上御事

一當村穴池御普請段々御願申上候処 當春

崎山幾右衛門殿御見分被下猶當七月藺喜平殿

御再見被下御積御入用米高三拾式石壹斗余

之内村方より為冥加米拾五石御手傳仕候様

申上候得共未御普請御取掛り無御座既一當年も

早搥一而傷毛荒等御願申上村方難渋之上

難渋相重ミ候 尤右穴池之儀は谷勢少ク年内

御普請御出来被成下候は兩 水溜り之程も難計

何卒此節急々御普請被為成下候様奉願上候有 此節

御普請御取掛り被為成下候、御入用米之内為冥加米

拾六石御手傳可奉申上候間何卒此節急々

御取掛り被為成下候様乍恐奉願上候此段宜敷被為仰

上可被下候已上

土生村庄屋

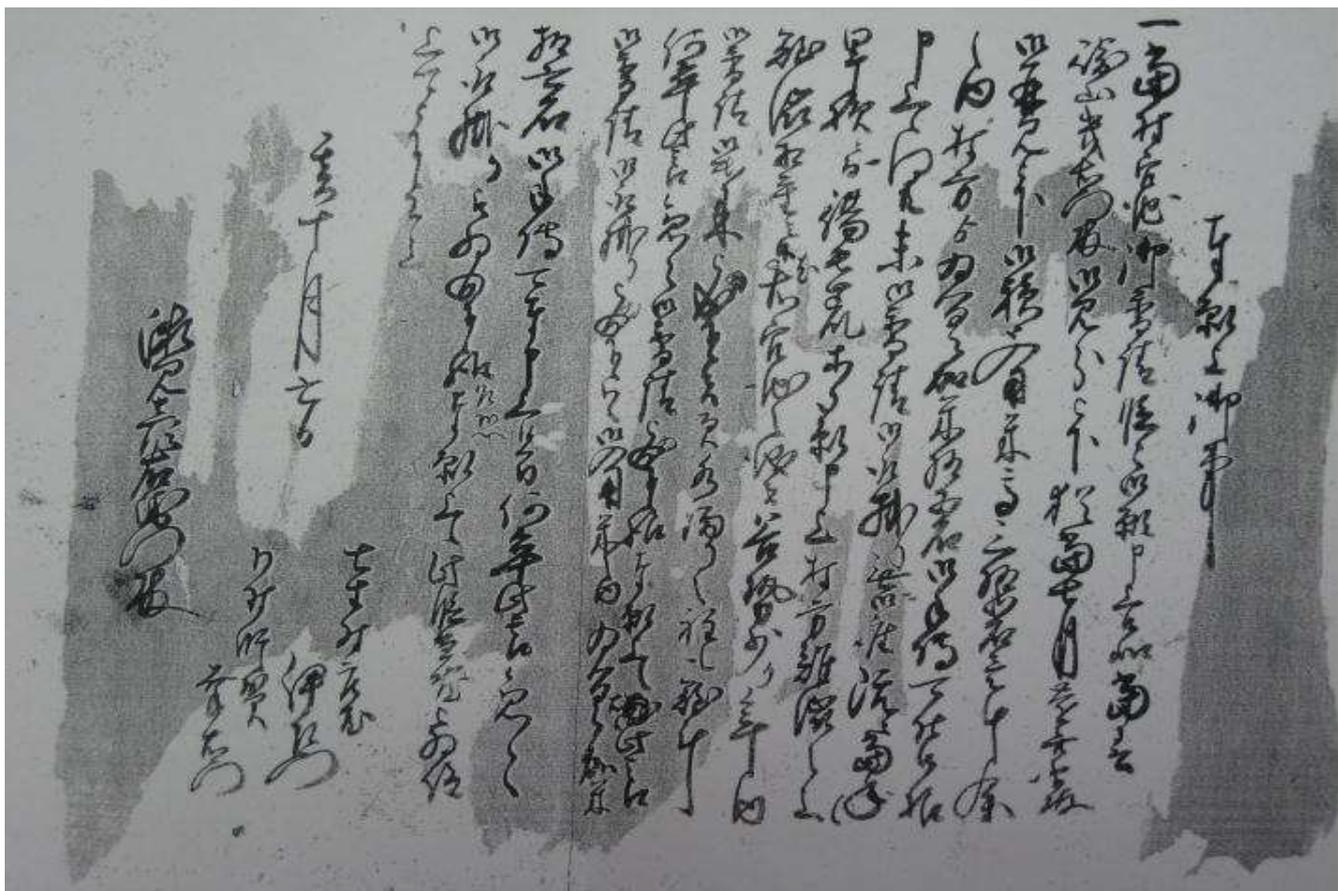
伊左衛門

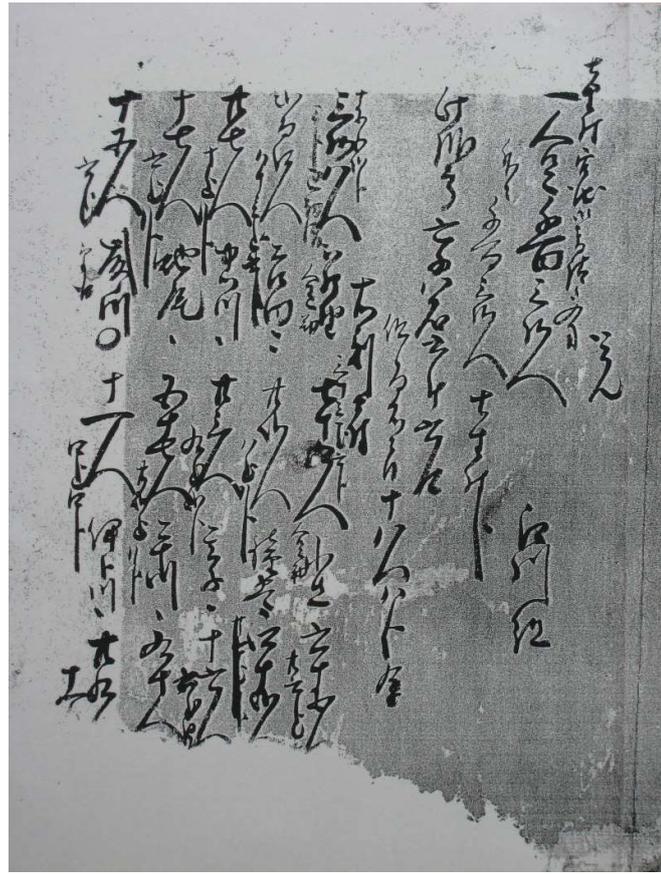
同 村肝煎

幸右衛門

亥十月六日

瀨見彦右衛門殿





覚

土生村穴池御普請御入用

一人足千百三拾人 江川組

外二

千百三拾人土生村分

此掛高六千八石六斗六合

但し百石二付十八八分余

右割一付

十五匁二分	三十二匁六分
三拾八人	若野
三分過	人足勤
	七十九人
	人足勤
	小熊
	六十五人
	□

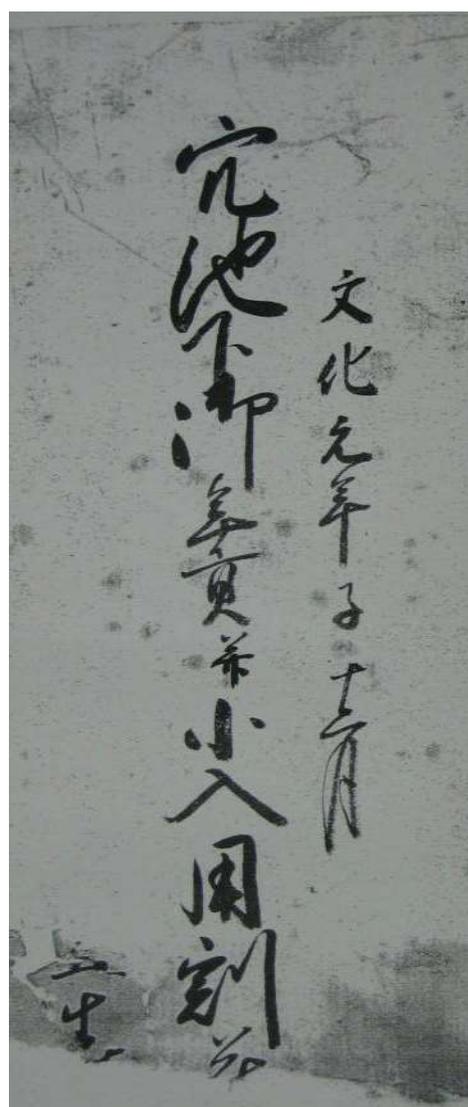
二百四人	吉田
八十匁六分	八匁八分
	廿貳人
	鐘卷
	四十貳人
	□

廿七人	中川
十匁八分	九匁三分
	玄子
	十六人
	□□□□

十七人	蛇尾
六匁八分	廿貳匁八分
	平川
	九十人
	□□□

十五人	藤ノ川
六匁	四匁四分
	十一人
	伊卜川
	廿九人
	□□□□

* 行末の口には江川組の村名があたと思われれるが破損して不明である



(一八〇四)
文化元年子十二月

穴池下御年貢并小入用割

土生□_村

この史料は最近町内の旧家の襖の下張りから発見された御用達留の一部で、由良町中央公民館小出館長に戴いた。

年代は亥の年(多分文化^(一八一五)十二年か文政^(一八二七)十年)のものと思われる。

土生穴池改修の許可を、土生村庄屋から江川組大庄屋 願い出た記録で、解読も小出館長が担当された。

土生穴池改修記録は、『川辺町史 史料編(下)』によると、^(一六五八)明暦四年と^(一八九四)明治二十七年の大工事の記録があるがその間

亥の年にも大改修があったことが此の記録で判明した。

一枚目は、崎山幾右衛門の見分と藺喜平の再度の見分で工費三十二石余、内土生村の負担は十五石余で、穴池周

りは谷が浅く遅れると水が溜まらないので、早く工事に取り掛かりたい。二枚目は、この工事に動員した土生村と江川

組内各村の人足数の覚書である。

他にその時に藩の役人と村の工事関係者の食事記録等も残っていると云々。

平成19(二〇〇七)年8月30日(木)

清水章博